

富岡地域づくり 協議会だより



第26号

令和5年6月9日

広報委員会

<https://www.town-tomioka.click/>

ウォークラリー大会が開催されました



令和5年3月11日(土)8時30分より、富岡まちづくりセンター第3駐車場を発着点として、富岡地区ウォークラリーが開催されました。



回を重ねること、今回で9度目になります。このウォークラリーの起原は、富岡地域づくり協議会の設立記念事業でしたので、富岡地域づくり協議会も設立9年を数えることになります。その分、この事業も定着してきているのかなと思います。



さて、今回も天気にも恵まれて、スタッフを含め350名を超える参加者のもと、早春の息吹を体いっぱいを感じつつ、かなり長い距離を完歩しました。例年どおり、7kmと11kmですが、時間にして2時間強から3時間弱の行程になります。当然のことながら個人差がありますが、多くの人にとってふだんの生活ではなかなか味わえない実践になります。それ故、歩み終えた後の達成感・充実感・成功感は、並大抵のものではないのではと思います。ふだん感覚ではない、特別な体験を味わえたのではないのでしょうか。



目的を一にする人達と、お互いに励まし合いながら、ゴールに向かって歩を進めるという醍醐味も味わえたと思います。

その途中には、スイセン・ヒアシンス・梅・桃・こぶし・ライラック等々の色とりどりの花が咲き、参加者に目の保養をさせてくれ、また、癒しを与えてくれたのではないのでしょうか。雄々しい姿の富士山もみられました。その前にかかなりの距離を歩いているので、疲れが蓄積されているところだとは思いますが、ゴールが近づいてきたことと相俟って、元気や勇気をもらえたのではと思います。歩くコースから日本一の山・富士山がみられるということは、それだけでも、快適なコースといえそうです。

目にした景色や、鳥の声や、そよ風や、小川のせせらぎやらに、心を癒され、新たな力や勢いを与えられたことを

実感できた人も多数いたのではないかと思います。今年は、桜の開花が早まりそうで、木によっては、花をつけたものもみられたかもしれません。

歩き終えた後の、お汁粉や豚汁等も楽しみなことのひとつだったと思いますが、新型コロナウイルスの影響で、この3年間飲食の提供ができないのが、実行委員会としても残念なことです。そうした心配をしないで、早く通常通りの事業ができることを期待したいと思います。(その分、参加賞がよくなっています。)

ところで、例年好評な抽選会の方はお楽しみいただけたかと思えます。思ってもいないところに、あるいは、今回こそはと思っているところに、地元野菜・商品券・入浴券など豪華景品等々、思いがけないものが当たったりして嬉しさも倍加して・・・ということかもしれません。この景品等を提供いただきました、個人・事業所・企業・店舗等の皆さん、本当に有り難うございました。有効に使わせていただきました。

結びに、富岡地区ウォークラリーの開催にあたり、運営及び実施に関わっていただきました実行委員及びスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。安全・安心へのお心使い等に感謝いたします。

二十歳のつどいが開催されました



令和5年1月9日
(月) 10時30分よ
り、富岡まちづくりセン
ターホールにて、「富岡
地区二十歳のつどい」が
開催されました。富岡地
区二十歳のつどい実行委
員会の主催によるもの
です。

ここまで読まれて、
「あれ、何かおかしい
ぞ」「何かしっくりこ
ないぞ」と思われた方が

いましたら、正しい感覚をお持ちの方です。

法令上、今年度から18才を成人とすることになって、『成人』の意味する内容が異なっていました。そこで、名称と内容及び実質が合致するように、この名称に変更になったという訳です。今回以降、この名称が使われることになりしますので、ご理解いただきたいと思います。



さて、天気に恵まれて、本「二十歳のつどい」も盛会裏に行われました。直近の2年間は、正にコロナの感染拡大防止のため様々な制約の上での実施でした。今年度大きく変わったことが2点あります。ひとつめは、ご来賓の人数が増えたことです。富岡地区選出の市議会議員さんをはじめ、富岡中学校の校長先生及び各自治会長さんにもご参会いただきました。ふたつめは、各自治会の社会教育部長の皆さんに、この会の係分担をしていただいたことです。地域の皆さんで地域の若者の門出を心よりお祝いしようとの気持ちの表れでもあります。

それでも、それ以前の内容等と比較してみると変わっていることがあります。例えば、飲食の提供ができないこと、ご来賓の祝辞を割愛させていただいていること、式典の時間を可能な限り短縮していること等がそれです。

ところで、参加いただいた二十歳の皆様のはつらつとした雄姿が、そして希望に満ちた笑顔が印象にのこりました。二十歳実行委員の皆さんも参加した仲間の皆さんに楽しんでもらえるようにとはりきって催しを進行していました。記憶に残る行事になったと思います。

結びに、本会の実施にあたりご尽力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

<編集後記>

「四季」から『春』 ヴィヴァルディ 作曲

3月下旬 穏やかな春の日差しが町を包む。市場には、色とりどりの花。そして、春野菜のアーティチョークが並びはじめた。・・・イタリアのベネチアの春間近の風景です。

「四季」を作曲した彼は、1678年に音楽家が多く住むカステッロ地区で生まれました。父はバイオリンリストで、小さい頃からその影響を受けました。バイオリン協奏曲等生涯300曲以上の曲を作成したそうです。「四季」も彼が作曲したもので、今ではクラシック音楽の中で最も人気の高い曲の一つに数えられています。そのため、誰もが耳にしたことがある曲だと思います。この傑作「四季」が日の目を見たのは、何と20世紀に入ってからだそうです。

その中の『春』を久しぶりに耳にし、上記の風景を目にしました。曲と風景とが確かに相まって心地よいほどでした。そういえば、この時期になると、この曲をよく聴いたことがありました。卒業式で流れていたり、デパートのBGMで流れたりしていたからです。

いよいよこれに似つかわしい時期になったなと実感しました。